



あさひまち

新潟大学旭町学術資料展示館ニューズレター 第17号 2019年6月

ISSN 2185-7431



教育施設としてのミュージアム

新潟大学旭町学術資料展示館長 郷 晃



現代は、インターネットの普及によって世界各国の博物資料や美術館の名品を画像で見ることが出来ます。また私も、インターネットから得た画像資料を活用し、それらを構成して授業を行うことができる恩恵にあずかっています。

しかし、画集やカタログ、インターネット画像には、一つ大きな落とし穴があります。それは、本物の迫力、ディテール感や重量感が存在しないことです。子供たちや学生がパソコンやスマートフォンのあの小さなモニターで世界の名品の画像を見て、解ったつもりになってしまうこと、表層をほんの少し舐めてみただけで通り過ぎて行くことに、なんとも残念な思いがあります。



レンブラント『夜警』（著者撮影）

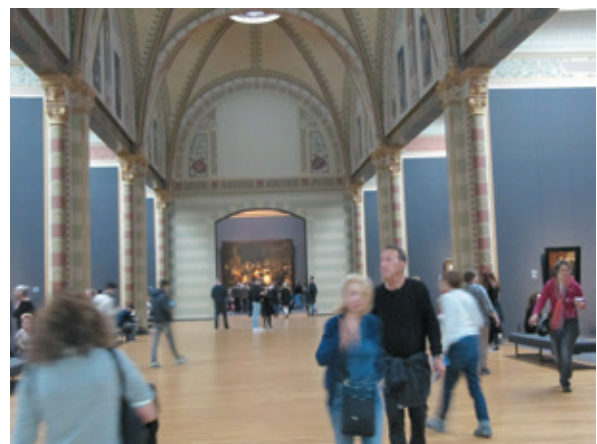
この春、かねて行ってみたいと考えていたアムステルダムやブリュッセルの美術館を訪ねる機会に恵まれました。美術館や博物館の重要な使命の一つに、本物を保存し展示することがあります。また私たちは、身近にそれに接することができます。

アムステルダム国立美術館では、レンブラントの代表作『夜警』の前で、一般鑑賞者が入れないロープを張った内側で、小学校の先生が、名画を前にして子供達を座らせて語りかけていました。こうしたシーンは、パリのルーヴル美術館、印象派の殿堂オルセー美術館、ウィーン美術史美術館、ベルヴェデーレ宮殿19世紀20世紀美術館など、かの地の美術館では、毎度の日常的な光景で、当たり前遭遇してきました。美術鑑

賞の授業だけでなく歴史や社会科の授業などでも世紀の名画を活用して授業が行われています。美術教育に関わるものとしては、まず日本では接することのできない非常に贅沢な羨ましいシーンです。

私は、教育学部で美術専門コースの学生以外にも、小学校の先生を目指す人達に図画工作の授業を行っていますが、「小中学校時代に美術や図画工作が苦手だった人は？」と聞くと半数以上の学生が恥ずかしそうに手を挙げます。理由は、ほぼ「絵が上手く描けない」です。狭い教室内に閉じた、お絵描き授業が多くその副作用でしょうか？これでは、教育の弊害と言えます。残念ながら芸術に触れて楽しむことの豊かさを学んで育っていない学生がたくさんいます。美術館で開催される展覧会を観てくる課題を出して、レポートを書かせると、初めて美術館を訪問しました、その雰囲気と時間に魅せられたという学生は、少なくありません。学校教育の場において、博物館や美術館がもっと多く活用されることを期待しています。近年、美術館では、教育普及担当の学芸員の方々が学校と連携して授業が行われてきているようですが、化石や恐竜の骨格標本、縄文土器、芸術作品などを観て、未来の日本を背負う子供達が自然科学や芸術に目覚める機会を多く造って欲しいと考えます。

かの国の教育シーンをみて、圧倒的な羨ましさを感ぜながら、日本にはまだまだ時間が必要なことを改めて認識して帰ってきました。



アムステルダム国立美術館 館内



異人池復元プロジェクト

開催期間：2018年8月1日(水)～9月7日(金)

旭町学術資料展示館 清水 美和

本展示は、橋本博文前館長を中心とする「異人池復元プロジェクト」の成果報告展です。同プロジェクトは、新潟市で開催された「水と土の芸術祭 2018」の市民プロジェクトとして採択されました。

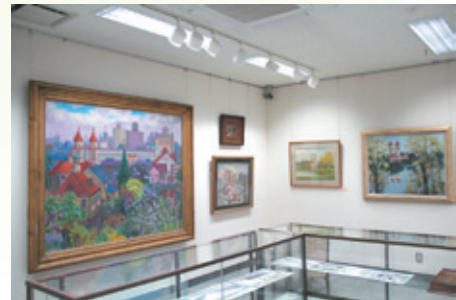
今はもう目にする事ができない異人池は、現在の新潟市中央区西大畑町域周辺に、昭和の戦後まもなくの頃まで存在していたと考えられています。この地域は、新潟砂丘内側で信濃川河口の低地に接するところに位置しており、かつては砂丘の高台から異人池とそのほとりの教会を見下ろすと、異国情緒あふれる風景が広がっていました。プロジェクトでは、古写真・古地図・絵画、該当地周辺のボーリングデータと現在の植生との比較、また現況の地形測量など多角的に異人池の姿に迫り、その魅力を探りました。

関連イベントとして展示会期前に「植物採集会」、「植物標本作り教室」を、会期中にプロジェクト関係者4人による「リレートーク」を開催しました。「植物採集会」と「植物標本作り教室」については、あさひまち友の会会員の大塚智恵子さんの本紙別掲文章をご覧ください。

8月26日(日)に開催した「リレートーク」では、橋本先生から展示作品の解説と、ボーリング調査や測量調査により見えてきた異人池の姿についての説明がありました。笹川太郎氏(新潟ハイカラ文庫)には、明治期から昭和20年代までの古地図に記された異人池を中心にお話しいただきました。朱雁氏(積雪地域

植物研究所)からは、本展で展示した植物標本の重要性に関する解説と、標本の作成者であり、ユキツバキ研究の第一人者である故・石澤進氏(元新潟大学理学部教授、元積雪地域植物研究所所長)の業績に関するお話がありました。石崎智美助教(理学部)からは、異人池の跡地周辺で現在みることのできる植物と、三芳悌吉が描いた『ある池のものごと』(福音館書店刊行、1986年)に描かれた植物との比較について解説がありました。会場には70人を超える来場者があり、当時を知る方だけでなく、幅広い世代の方から関心を寄せて頂きました。アンケートからは、異人池やカトリック教会が懐かしい風景として心に刻まれているという思い出や、絵本で知った異人池がどんなものだったのか知りたいという声が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

会期中には投句箱を設置し、かつての異人池と周辺の風景にちなんだ俳句が数多く寄せられました。



「異人池復元プロジェクト」展 関連イベントに参加して



7月21日(土)に新潟市中央区のカトリック新潟教会敷地内で開催された「植物採集会」と、7月28日(土)に新潟大学医学部第4講義室で開催された「植物標本作り教室」に参加しました。

「植物採集会」では、採集した植物の根をその場で水洗いし、四ツ折の新聞紙にはさみ込みました。これは、植物を標本にする下準備です。約1週間は毎日新聞紙を取替え、水分を除くようにとのことでした。

「植物標本作り教室」では、採集した植物標本を台紙に和紙で貼り付ける作業をし、小学2年生から大人まで約20人で参加しました。見た目がきれいで葉先から根まであり、葉は表と裏、花や実がある方が良いとのこ

あさひまち友の会 大塚 智恵子

とで、貼り付け作業には苦心しました。植物名・採集地・採集日・採集者氏名等を記したラベルを貼り、作業を終えました。中学生の時にも同様に標本作りをしたことを思い出し、このような地道な活動が植生・分布図を作る元となることを知り、異人池の当時の姿、絵画や写真でしか残っていないその姿に思いをめぐらしました。

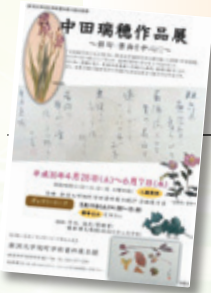
地球環境の変化による日本の温暖化は植物の分布図によっても示されることから、過去と現在の植物標本はそのための貴重な資料として後世に残し、役立ててほしいと願います。



中田瑞穂作品展—俳句・書画を中心に—

開催期間：2018年4月28日(土)～6月7日(木)

旭町学術資料展示館 清水 美和



「日本脳外科の父」と称され、新潟大学脳研究所の礎を築いた医師・中田瑞穂は、「みづほ」の俳号を持つホトトギス派の俳人としても著名であり、書画を得意とする

文人でもありました。

本企画展では、上越市在住の平丸誠氏から2016年に新潟大学医歯学図書館が寄贈を受けた中田瑞穂の水彩画や句額などの貴重な作品を中心に、当展示館や脳研究所で所蔵する俳句・書画などを合わせて展示しました。

5月19日(土)には、寄贈者の平丸氏と本展を企画した橋本博文前館長によるギャラリートークを開催し、平丸氏からは中田瑞穂作品の所蔵および、本学への寄贈の経緯に関するお話しが、橋本先生からは展示作品のうち、画帖を中心とした解説があり、参加者の皆さんは熱心に聴き入っていました。

来場者からは、これまで目にしたことのない作

品が見られてよかったという声や、「写生」を旨とするホトトギス派の俳人らしく、対象をよく観察した緻密な絵であるといった感想が寄せられました。



特別展

弥生時代環濠集落から古墳時代の豪族居館へ?

開催期間:2018年10月11日(木)～11月4日(日) 会場:新潟市新津美術館市民ギャラリー

あさひまち友の会 坂井 百合子



「まるで抽象画みたいですね。」ある来館者の言葉です。旭町学術資料展示館の移動博物館として新津美術館市民ギャラリーにおいて開催された特別展「弥生時代の環濠集落から古墳時代の豪族居館へ?」は、美術館で同時期に人気のあるスウェーデンの陶芸家の作品展が行われていたこともあり、あまり考古学に関心のない方々も立ち寄られました。予備知識のない方にとっては、壁面を埋め尽くした剥離標本は絵画のように見えたのでしょうか。確かに、考古学に関心の深い方々もすべての壁面を埋め尽くした青と茶色のグラデーションの大きなパネルには圧倒されたことでしょうか。考古学の新たな一面を見たことと思われます。

橋本博文先生(人文学部考古学研究室)の研究の集大成として企画されたこの展示は、剥離標本と遺物を同時に見ることによって、環濠集落や豪族居館の存在を発掘現場に立ち会っているように、我々に感じさせてくれたように思います。また、剥離標本製作の過程

を説明したパネルではそのダイナミックな方法がわかりやすく示されており、見る人の関心を引き付けていました。

これらの標本は展示会期終了後にそれぞれの地域の施設に寄贈される予定とのことで、今回のように一堂に会する機会は二度とめぐってこないことと思われます。それぞれの貴重な標本が、それぞれの地域に帰り、さらに多くの人たちの目に触れることを願っています。このような得難い体験をさせていただいたこと、さらにはその展示・運営のお手伝いに旭町学術資料展示館友の会の一員として参加できたことに感謝いたします。



企画展示



ジオパークのミュージアム展

開催期間：2018年7月7日(土)～8月31日(金)

農学部農学科3年 青木 ほのり

みなさんはジオパークという言葉を知っていますか？ジオパークは、価値ある地質遺産を持ち、大地の成り立ちを学ぶことのできる場所で、大地の公園とも呼ばれています。新潟県内では、糸魚川はユネスコ世界ジオパークとして、佐渡、苗場山麓は日本ジオパークとして認定されています。実際にジオパークを訪れて学んで体験して、その魅力を肌で感じて欲しい—そんな想いで企画されたのが、今回の企画展示「ジオパークのミュージアム展」です。新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて平成30年7月7日から8月31日までの期間開催されました。会場には、各ジオパークの中心施設であるミュージアムの紹介や、新潟大学での様々な取り組みについてのパネルが展示されました。

子供達にも興味を持ってもらえるようにスタンプラリーも実施され、各ミュージアムの特色を生かした記念品が用意されていました。その中のひとつである化石が欲しくて何度も足を運んでいるという親子にも出会いました。

また、会期中の8月4日・24日には、子供向け体験イベント「ふれあいトーク」を実施しました。参加した子供達は色とりどりの化石レプリカや自分だけの勾玉の作製に夢中で取り組んでいました。この体験を通

じて子供達が漠然とでもジオパークを身近に感じてくれたらと思います。

新潟大学にはダブルホームという地域交流活動があり、私は糸魚川市で活動しているご縁で今回の企画展示に関らせていただきました。地学は全くの専門外ですが、ジオパークについて学んでからは糸魚川を訪れる度、足元の大地に対して新鮮な感覚を持つようになりました。ジオパークの持つこういった魅力を多くの方に知っていただけたら嬉しく思います。



8月4日のふれあいトーク

企画展示

院展図録表紙絵原画展

(公益財団法人日本美術院「第73回春の院展新潟巡回展」連携企画)

開催期間：2018年9月19日(水)～9月30日(日)

教育学部 永吉 秀司



公益財団法人日本美術院地域連携教育普及プログラムの協力のもと、同院が所蔵する作品十数点を展示した。

平山郁夫、大矢紀、片岡球子など日本美術院が主催する公募展の図録表紙絵を中心に、小林古径、新井勝利による写生、スケッチの原画も公開し、本来ならその作家の回顧展などでしか見ることができない作品を身近に感じとることができ、良質な作品に触れるよい機会となった。

例年9月に開催されている日本美術院「春の院展」新潟巡回展に合わせて本展覧会の会期を設定したため、会場の新潟三越が所在する古町地区と、旭町キャンパス界隈での地域文化活動の醸成にも貢献ができる企画となった。

また、日本美術院の巡回展と連携することで入場者

数においても相乗効果が得られ、巡回展側の入場者数も向上するという結果となり、日本美術院と、当館および地域が連携活動を展開するための方法を模索する実践例として、一定効果を上げた企画といえる。



佐渡ゆかりの書文化展

開催期間：2018年10月4日（木）～11月28日（水）

教育学部 岡村 浩



近くて遠い佐渡。県民でも行ったことがない人も多い。Gコード授業の一環として学生への参観をうながし、また世界遺産をめざす当地文化の滋味な面に注目しての企画展である。古くは江戸の儒者から、近代の地元を代表する教育者、島

を離れ中央で活躍した研究者、政治家、次いで現代の工芸家、郷土史家、そして書家・篆刻家の多彩な書画約100点を展示した。

会期中10月14日には佐渡市文化財保護審議委員、書家として活躍される本学書道科卒業生の川上青海氏による講演会を開催、佐渡からの来場者を含め会場にあふれる聴講者があった。

今回取り上げられなかった人物や作品を用いた第2

弾、また佐渡での同様の企画が立案されつつあり、系統立てたテーマ追究を続けたい。



キャンドルナイト in 旭町

開催日：2018年10月20日（土）

今回で3回目の開催となった「キャンドルナイト in 旭町」。毎年10月に当館の近隣施設である齋藤家別邸・北方文化博物館新潟分館主催により開催される「新潟竹あかり 花あかり」との連携企画として実施しています。

このイベントは、展示館の外周に手造りの紙灯籠を置いて、その灯りを楽しむというもので、当日は20:00まで延長開館を行いました。紙灯籠は、当日開催した「灯籠づくりワークショップ」の参加者の方や、ボランテ

ィア組織「あさひまち友の会」、教育学部書道科の学生など、多くの方の手によりつくられました。当日は、NPO法人「エキナン会」および「あさひまち友の会」の皆さんのご指導・ご協力のもと、安全に配慮して灯籠を配置し、キャンドルに火を灯しました。心配され

た雨の影響もなく、来館者の皆さんは灯籠の柔らかな灯りを楽しんでいました。

当日、館内では「佐渡ゆかりの書文化展」開催中の企画展示室にて、奥村京子さんによる演奏会「箏の夕べ」を開催し、佐渡にちなんだ「砂山」を始め、「アメイジング・グレイス」「千の風になって」など、6曲を演奏していただきました。時に力強く時に柔らかな豊かな箏の調べに、観客の皆さんは聴き入っていました。

手造りの灯籠の灯りと書作品を背景に奏でる箏の調べに彩られた、素敵な夜となりました。



企画展示

画家の眼差し - 永吉秀司 習作品展 -

開催期間：2018年12月7日(金)～2019年1月20日(日)

教育学部 永吉 秀司



広義において、画家や作家、アーティストと呼ばれる人々は、その表現された成果物に対して「才能」という言葉で片付けられることが多い。無論、敬意を持って扱われることも多い言葉であるが、実際には、その制作に至るまでに鍛錬や文献資料での研究を重ね、幾度となく実践・失敗を経験して成立しているものがほとんどである。

基本的に作家や画家が、表現者として生きていくためには、そのカリスマ性も必要な要素であるため、地道な努力や思索というプロセスはあまり公開することがない。

今回の企画展は、その作家の鍛錬や制作過程に焦点を当てた展覧会である。

ひとりの日本画家でもある筆者が、画家を志した高校生時代、大学生時代、社会人時代の写生、スケッチ画と、制作過程やその当時思索していたことなどをキャプションで紹介し、その当時の思索や葛藤を可視化することのできる展示形態で展示会場を演出した。

これから絵画制作を始める人々や学生の良い学びの

機会となり、開催期間中にはギャラリートーク、スケッチのデモンストレーションも実施した。

また、デモンストレーションで描いたスケッチは、展示館に寄贈することとなった。



企画展示

今井翔太展

開催期間：2019年1月31日(木)～4月21日(日)*3月17日(日)終了から会期延長

教育学部学校教員養成課程美術教育専修(平成31年3月卒) 今井 翔太



本企画展は、新潟大学美術科の学びの成果を公開する学生支援企画として開催されました。大学4年間で制作してきた作品を時系列に展示し、どのように一人の学生が新潟大学で美術を学び、形にしてきたかという軌跡を可視化することができた企画展となりました。また、私自身にとってもこの上なく素晴らしい機会を頂くことができ、多くの方々と作品を通して出会うことで自分が作品を制作することによって人々に与える影響を直接感じ取ることができました。今まで日の目を見なかった作品も、今企画展の趣旨に沿う形で意義のある作品として展示できたことは大変嬉しく、改めて作品を展示することで今までの作品制作の過程を自分自身が振り返ることができたことも、今後展開していく作家活動に大きな影響を与えたいと思います。

本企画展では可能な限り会場に足を運ぶことに務めました。自分の作品を通して多くの方々と会話を交わ

し、作品に対して抱く思いが鑑賞者各々大きく異なることを実感し、様々な視点からの意見や感想を頂きました。その中でも最も多く頂いたのが、今後の自分に期待し、応援して下さる声でした。これは大変光栄なことで、改めてこれからもより一層精進していこうと決意しました。同時に、作品を発表するということは作品が社会へ開かれることを意味し、個人の範疇を超えた様々な責任が生じるということを感じることができました。

今後は国内外問わず活動していく所存ですが、旭町学術資料展示館で作品を発表する機会を頂いたことを大きな糧としてこれからの人生を歩んでいきたいと思っています。本展に関わって頂いた全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。



平成30年度 あさひまち展示館 活動記録

●あさひまち展示館企画展示

期 間	タイトル	担 当	展示室
2018.4.6～4.26	展示館でお花見を 2018	展示館	企画展示室
2018.4.28～6.7	中田瑞穂作品展－俳句・書画を中心に－	人文学部	企画展示室
2018.6.15～7.22	戦争を考える 2018	人文学部	企画展示室
2018.6.15～7.22	戦争と子どもの表現展 II	教育学部	企画展示室
2018.8.1～9.7	異人池復元プロジェクト	人文学部	企画展示室
2018.9.19～9.30	院展図録表紙絵原画展	教育学部	企画展示室
2018.10.4～11.28	佐渡ゆかりの書文化展	教育学部	企画展示室
2018.10.13～11.3	わたしたちの佐渡ジオパーク：地学実験 A 実習発表展	理学部	1F 常設展示室
2018.12.7 ～2019.1.20	画家の眼差し－永吉秀司 習作品展－	教育学部	企画展示室
2019.1.31～4.21	今井翔太展	教育学部	企画展示室
2019.2.21～4.14	めでたい形－子どもの成長を育む郷土玩具－	教育学部	企画展示室

●あさひまち展示館 サテライト・ミュージアム駅南キャンパス「ときめいと」企画展示

期 間	タイトル	担 当	会 場
2018.7.7～8.31	ジオパークのミュージアム展	理学部	ときめいと

●特別展（移動博物館）

期 間	タイトル	担 当	会 場
2018.10.11～11.4	弥生時代の環濠集落から古墳時代の豪族居館へ？	人文学部	新潟市新津美術館市民ギャラリー

●フォーラム・講演会

期 間	タイトル	講 師	会 場
2018.6.2	第 16 回新潟大学あさひまち展示館友の会総会 記念講演会「西洋絵画史番外編」	郷見教育学部教授	ときめいと
2018.10.13	弥生時代の環濠集落から古墳時代の豪族居館へ？	橋本博文人文学部教授	新潟市新津美術館レクチャールーム

●ギャラリートーク・体験教室・関連イベント

日 時	タイトル	講 師	関連展示
2018.5.19	ギャラリートーク	平丸 誠（寄贈者）、 橋本博文人文学部教授	中田瑞穂作品展～俳句・ 書画を中心に～
2018.7.14	ギャラリートーク	橋本博文人文学部教授	戦争を考える 2018 展
2018.7.21	植物採集会	橋本博文人文学部教授	異人池復元プロジェクト
2018.7.28	植物標本作り教室	橋本博文人文学部教授	異人池復元プロジェクト
2018.8.4,8.24	ふれあいトーク（ときめいと）	松岡篤理学部教授ほか	ジオパークのミュージアム展
2018.8.26	リレートーク	橋本博文人文学部教授ほか	異人池復元プロジェクト
2018.10.14	記念講演会・作品鑑賞会	川上青海（書家・佐渡市 文化財保護審議員）	佐渡ゆかりの書文化展
2018.10.20	灯籠作りワークショップ	清水美和	キャンドルナイト in 旭町
2018.10.20	箏の夕べ	奥村京子（箏演奏）	キャンドルナイト in 旭町
2018.12.15	公開スケッチ	永吉秀司教育学部准教授	画家の眼差し －永吉秀司 習作作品展－
2019.1.13	作品解説会	永吉秀司教育学部准教授	画家の眼差し －永吉秀司 習作作品展－
2019.3.2	ギャラリートーク	今井翔太（教育学部4年）・ 永吉秀司教育学部准教授	今井翔太展

●友の会行事

日 時	テーマ
2018.6.2	第 16 回新潟大学あさひまち展示館友の会 総会

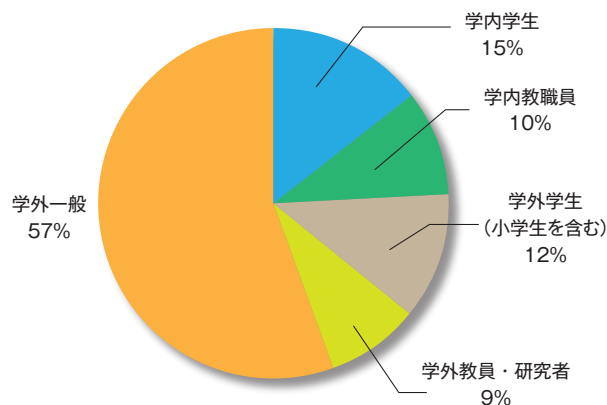
あさひまち展示館入館状況

●入館者数

(2018年4月～2019年3月)

月	学内		学外			計
	学生	教職員	学生	教員研究者	一般	
4月	9	33	80	26	90	238
5月	24	35	18	23	145	245
6月	95	43	2	31	139	310
7月	140	35	25	36	297	533
8月	39	41	57	64	399	600
9月	8	42	7	67	334	458
10月	165	51	27	36	214	493
11月	10	30	2	39	149	230
12月	17	40	2	33	111	203
2019年1月	6	24	6	37	93	166
2月	52	25	5	50	193	325
3月	72	44	38	52	319	525
計	637	443	269	494	2,483	4,326

※開館日：水・木・金・土・日曜日の週5日間



●団体入館者

日付	団体名	人数
2018年4月22日,25日	北越高等学校2年生	50
2018年5月12日	新潟大学考古学研究部	17
2018年6月25日	新潟市立白新中学校2年生	10
2018年7月7日	新潟大学あゆみ保育園	19
2019年3月3日,7日	新潟市動く市政教室	57
2019年3月6日	福島県川俣町「歩こう会」	25

●講義・実習等での活用

日付	講義・実習名	人数
2018年6月9日ほか	考古学概説 / 人文学部	55
2018年6月30日	地学実験A / 理学部	19
2018年7月7日	放送大学新潟学習センター	27
2018年7月14日	社会地域文化基礎演習	13
通年	博物館見学実習	50

新潟大学旭町学術資料展示館ニュースレター

あさひまち

第17号

■ISSN 2185-7431

■発行年月日 2019年6月14日

■編集・発行 〒950-8122 新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館

■印刷 富士印刷株式会社

編集後記

平成30年度は郷新館長のもと、館内外で多くの企画展を開催し、講演会やギャラリートークなどの関連イベントを実施しました。地域の歴史や文化を振り返る企画や、大学ゆかりの人物に関する企画など、学内・学外を問わず様々な方に訪れていただきました。2019年は新潟大学が創立70周年、前身校の一つである旧制新潟高等学校にとっては創立100周年、さらに当館の建物も旧制新潟師範学校記念館として建設されてから90年という記念すべき年にあたります。新潟大学のたどってきた道のりを振り返りつつ、教員・学生の調査研究や創作活動の発表の場として、引き続き活動してまいります。

